

家 庭

1 全般的事項に関する質疑応答

問1 高等学校家庭科における改訂の要点とはどのようなものか。

家庭科においては、実践的・体験的な学習活動を通して、よりよい社会の構築に向けて、主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力の育成を目指すこととし、高等学校家庭科として、目標及び内容について、次のように改善を図った。

(1) 目標の改善

教科目標については、今回の改訂の基本方針を踏まえ、高等学校家庭科においても、育成を目指す資質・能力を三つの柱により明確にし、全体に関わる目標を柱書として示すとともに、(1)として「知識及び技能」を、(2)として「思考力、判断力、表現力等」を、(3)として「学びに向かう力、人間性等」の目標を示した。

また、(1)から(3)までに示す資質・能力の育成を目指すに当たり、質の高い学びを実現するため、家庭科の特質に応じた物事を捉える視点や考え方(見方・考え方)を働かせることを示すこととし、次のとおり目標を改めた。

〈高等学校の各学科に共通する教科「家庭」の目標〉

生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的に捉え、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会との関わりについて理解を深め、家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて、生活を主体的に営むために必要な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。
- (2) 家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して生活の課題を解決する力を養う。
- (3) 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を主体的に創造しようとする実践的な態度を養う。

(2) 科目編成、及び各科目の内容の改善

科目編成の改善については、生徒の多様な能力、適性、興味・関心等に応じて選択して履修させることを重視し、「家庭基礎」(2単位)、「家庭総合」(4単位)の2科目を設けた。これらの2科目のうちいずれか1科目を必修科目として履修することとしている。各学校においては、各科目の改訂の趣旨を踏まえ、複数の科目を開

設して生徒が選択できるようにすることが望まれる。

また、各科目の内容の改善については次のとおりである。

〈各科目の内容の改善〉

I 各科目の構成等について

次のとおり、内容の構成及び内容を整理した。

「家庭基礎」…生活を主体的に営むために必要な基礎的な理解と技能を身に付け、自立した生活者として必要な実践力を育成することを重視。

「家庭総合」…従前の「家庭総合」や「生活デザイン」の内容を継承し、生活を主体的に営むために必要な科学的な理解と技能を体験的・総合的に身に付け、生活文化の継承・創造、高齢者の介護や消費生活に関する実習や演習を行うことを重視。

	内容の構成	内容
家庭基礎	・家族・家庭及び福祉 ・衣食住 ・消費生活・環境 ・ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動	A 人の一生と家族・家庭及び福祉 B 衣食住の生活の自立と設計 C 持続可能な消費生活・環境 D ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動
家庭総合	・家族・家庭及び福祉 ・衣食住 ・消費生活・環境 ・ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動	A 人の一生と家族・家庭及び福祉 B 衣食住の生活の科学と文化 C 持続可能な消費生活・環境 D ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動

- ・両科目において、従前の「生涯の生活設計」をまとめ及び導入として位置付け、AからCまでの内容と関連付けることで、生活課題に対応した意思決定の重要性についての理解や生涯を見通した生活設計の工夫ができるよう内容を充実。
- ・ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動を引き続き重視。
- ・家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして解決策を構想し、実践を評価・改善して、新たな課題の解決に向かう過程を重視した学習を充実。

II 現代的な諸課題との関連について

少子化の進展	【家庭基礎】子育て支援、乳幼児と関わるための基礎的な技能に関する内容を充実。 ----- 【家庭総合】子供の遊びと文化、子育て支援、子供の発達に応じた適切な関わり方の工夫などに関する内容を充実。
高齢化の進展	【家庭基礎】高齢者の尊厳と介護（認知症を含む）に関する内容及び高齢者の生活支援に関する基礎的な技能などの内容を充実。 ----- 【家庭総合】高齢者の尊厳と介護（認知症を含む）に関する内容及び高齢者の心身の状況に応じた生活支援に関する技能などの内容を充実。
衣食住	【家庭基礎】日本の伝統的な生活文化の継承・創造に関わる内容及び自立した生活を営むために必要な基礎的・基本的な内容を充実。 ----- 【家庭総合】日本の伝統的な生活文化の継承・創造に関わる内容及び生涯を見通したライフステージごとの生活を科学的に理解させることを重視。
消費生活・環境	成年年齢の引下げを踏まえ、契約の重要性や消費者保護の仕組みに関する内容など、消費者被害の未然防止に資する内容を充実。

2 各科目に関する質疑応答

問1 教科「家庭」の移行措置の内容とはどのようなものか。

令和元年（2019年）4月1日から新学習指導要領が適用される令和4年（2022）年4月1日までの間における移行措置として取り扱わなければならない内容は次のとおりである。

〈高等学校の各学科に共通する教科「家庭」における移行措置〉

- (1) 平成30年度（2018年度）以降の入学生について、成年年齢が18歳に引き下げられることから、自立した消費者の育成のために、新学習指導要領の契約の重要性及び消費者保護の仕組みに関する規定の事項を加えて指導すること。
- (2) 現行学習指導要領の改正に伴い、令和2年度（2020年度）及び令和3年度（2021年度）の入学生については、(1)に加え、「家庭基礎」、「家庭総合」の「2(3)生活における経済の計画と消費」、「生活デザイン」の「2(2)消費や環境に配慮したライフスタイルの確立」を、それぞれ第1学年及び第2学年のうちに履修させること。
- (3) 令和4年度（2022年度）以降の入学生について、新学習指導要領の家庭科においては、「家庭基礎」、「家庭総合」の「C 持続可能な消費生活・環境」を、それぞれ第1学年及び第2学年のうちに履修させること。

問2 教育課程編成上、「家庭基礎」について、留意すべきことはどのようなことか。

「家庭基礎」は、必修科目としての基本的な性格を踏まえ、基礎的な学習内容で構成される標準単位数2単位の科目であるので、同一年次で2単位を履修させ、実験・実習などの実践的・体験的な学習活動を通して科目の目標を達成することができるよう配慮し、指導の効果を高めることが必要である。

問3 教育課程編成上、「家庭総合」について、留意すべきことはどのようなことか。

「家庭総合」は、必修科目としての基本的な性格を踏まえて構成される標準単位数4単位の科目である。複数の年次にわたって分割して履修させる場合は、第1学年と第2学年で2単位ずつの分割履修をさせるなど、連続する年次において履修させ、実験・実習などの実践的・体験的な学習活動を通して科目の目標を達成することができるよう配慮し、内容の関連性や系統性に留意して指導の効果を高めることが必要である。

問4 「家庭基礎」及び「家庭総合」の内容の一つ「C 持続可能な消費生活・環境」について、留意すべきことはどのようなことか。

今回の改訂においては、小・中・高等学校の系統性や成年年齢の引下げを踏まえ、内容のC「持続可能な消費生活・環境」として新たに位置付けた。指導に当たっては、持続可能な社会を見通して、自立した生活を営むために必要な生活における経済の計画や消費生活及び環境との関わり等に関する理解を深めるために、内容のA及びBと相互に関連を図ることができるよう工夫することとなっている。

なお、成年年齢が18歳に引き下げられ、18歳から一人で有効な契約をすることができるようになる一方、保護者の同意を得ずに締結した契約を取り消すことができる年齢が18歳未満までとなることから、自主的かつ合理的に社会の一員として行動する自立した消費者の育成のため、また、若年者の消費者被害の防止・救済のためにも、こうした消費生活に関わる内容についてより一層の指導の充実を図ることが必要である。

問5 高等学校の教科「家庭」の観点別学習状況の評価の観点と趣旨はどのようなものか。

教科の目標及び内容を「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の資質・能力の三つの柱で再整理した新学習指導要領の下での指導と評価の一体化を推進する観点から、観点別学習状況の評価の観点についても、これらの資質・能力に関わる「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3観点に整理して示し、これに基づく適切な観点を設定した。3観点の趣旨については次のとおりである。

〈各学科に共通する教科「家庭」の評価の観点及びその趣旨〉

観点	趣旨
知識・技能	人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的に捉え、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会との関わりについて理解を深め、生活を主体的に営むために必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて理解しているとともに、それらに係る技能を身に付けている。
思考・判断・表現	生涯を見通して、家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。
主体的に学習に取り組む態度	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善して、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を創造し、実践しようとしている。

3 新学習指導要領を踏まえた現行学習指導要領における指導

現行学習指導要領「家庭基礎」において、生涯を見通した住生活を営むために必要な能力を身に付けるとともに、ICTを効果的に活用し、思考力・表現力・判断力等の育成を図ることを目指した、主体的・対話的で深い学びを実現するための指導の実践例を示す。

実践事例

生涯を見通した住生活を営むために必要な資質・能力を育成する「家庭基礎」における指導について

- ◆ ICTを活用し、思考力・判断力・表現力等を育成する「家庭基礎」の取組について
「家庭基礎」においては、家族や生活の営みを人の一生との関わりの中でとらえ、生涯を見通して、生活課題に対応し、意思決定をしていくことの重要性について理解を深めるとともに、自己の生活について主体的に考え、ライフスタイルと将来の家庭生活及び職業生活について考察し、生活設計を工夫することが求められている。

ここでは、ICTを活用し、思考力・判断力・表現力等を深めながら生涯を見通した住生活を営むために必要な能力の育成を図る「家庭基礎」の指導の実践例を示す。

◆ 単元の指導計画（または学習指導案等）

単元名	(2) 生活の自立及び消費と環境 ウ 住居と住環境 (7) 住居と家族の生活 (全5時間)				
単元の目標	生活の場としての住居の条件について考え、家族の生活に応じた適切な住居の計画や選択ができるようになる。				
評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解	
評価規準	生涯を見通して、住空間の計画などについて関心を持ち、よりよい住生活について考えようとしている。	各ライフステージに応じた住居、人間と住居との関わりについて考え、まとめたり、発表したりしている。	家族構成やライフステージ、価値観に応じた住空間について検討・計画することができる。	家族構成やライフステージの変化と住要求の関係について理解している。	
次程	学習内容と問い（または評価規準等）			評価の観点 関 思 技 知	
第1次	<p>【学習内容】 住居の機能や平面図の読み取りを理解させる。また、住宅情報から自分が住みたい物件を選び、諸条件から一人暮らしの現状や課題を考えさせる。</p> <p>【問い】 一人暮らしの快適な住まいの条件と、それらを満たすためのポイントについて考えよう。</p>	<p>【主体的で深い学び】の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ●複数の住宅情報を提示し主体的に選択させることにより、興味関心を高める。 ●身に付けた知識を実生活で生かすというサイクルを理解し、単元の見通しを持つ。 	○	○	
第2次	<p>【学習内容】 室内外の安全性・快適性と環境に配慮した住居の在り方を理解させ、持続可能な住まい方を考えさせる。</p> <p>【問い】 現在の住まいにおける安全性・快適性等の課題を挙げ、持続可能な住生活を送る上で必要なことを考えよう。</p>				○
第3次 (本時)	<p>【学習内容】 各ライフステージの住まい方の工夫について考えを深め、グループで住空間を検討・計画させ、よりよい住まいを考察させる。</p> <p>【問い】 家族構成やライフステージ、生活の価値観に応じた住空間にするために、どのような工夫ができるだろうか。</p>	<p>【対話的で深い学び】の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ●グループでの協働を通し、学習した内容を活用して、多面的な理解とよりよい住生活を送るための工夫につなげる。 ●様々な捉え方・考え方に触れることで、気づきを得て、思考を広げる。 	○	○	
第4・5次	<p>【学習内容】 避難所運営ゲーム北海道版（愛称：Doはぐ）を用いて、住環境における地域社会とのつながりの重要性和課題を自分事として理解させる。</p> <p>【問い】 様々な人を受け入れ、生活の場となる避難場所としての住環境をどう整えていけばいいのだろうか。</p>	 	○		

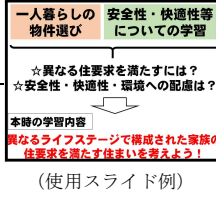

※ 避難所運営ゲーム北海道版（愛称：Doはぐ）

アドレス「<http://kyouiku.bousai-hokkaido.jp/wordpress/news/do-hug/>」

◆ 1 単位時間（第3次）の指導と評価の計画

- 1 本時の目標
 (1) 各ライフステージの住まい方の工夫について考えを深め、住空間を検討・計画させる。
 (2) 発表による他グループとの比較を通し、よりよい住まいを考察させる。

2 本時の展開（全5時間予定の3時間目）

	学習内容	生徒の学習活動	指導上の留意点	評価規準
導入	本時の学習内容、目標の確認	・前時の学習内容を振り返る。 ・本時の授業の流れを把握し、目標を知る。	・パワーポイントで、端的に示す。	
展開	一斉学習	・ライフステージと住居について学習する。	・パワーポイントで資料を提示することで、課題を的確に捉えさせる。	
	協働学習	<p>【問い】各ライフステージや家族構成に合わせた住まい方を考えよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・担当する家族構成から、ライフステージ毎の特徴を踏まえ、住要求に応じた住空間を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各グループに家族構成を指示する。その際、成人した子どもが同居する、しないについて等は各グループの判断に任せる。 ・班ごとに活発な意見交換ができるよう配慮する。 	<p>【技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ライフステージ毎の住要求に応じた住空間について検討・計画している。 <p><評価方法></p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループワークシート ・行動観察
	発表	<ul style="list-style-type: none"> ・各グループのまとめを実物投影機を使用して発表し、全体で共有する。 ・発表から得た気づきを各自プリントに記入する。 ・発表後、数名の生徒に感想や意見を述べる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発表中の補足については、直接投影された黒板に板書するなどして付け加えさせる。 ・同じライフステージの家族でも、住要求が異なる場合があることを認識させる。 	<p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ライフステージ毎に住要求に応じた住空間にする工夫を具体的に考え、まとめ、発表している。 <p><評価方法></p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループワークシート ・発表
まとめ	本時のまとめ	<p>【問い】現在の住生活を振り返り、これからの住まいを考える上での課題や解決策を挙げよう</p>		
	次時の学習内容の確認	・事前に記入してある個人記入シートへ、本時の学習を振り返り、記入する。	・自分の住生活と比較させ記入させる。 <個人記入シート>	<p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループワークや発表を元に思考を深め、現在の住生活の課題や今後の住まいの在り方について考えている。 <p><評価方法></p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人記入シート

① ICT活用の類型<A一斉学習>

教員による教材の提示

パワーポイントを用いて、本時の授業の流れや補助資料などを分かりやすく提示・説明することで、生徒の興味関心を喚起し、意欲的に学習に取り組ませる。



② ICT活用の類型<B個別学習>

調査活動

思考を深める学習

インターネットでの情報収集やデジタル教材を用いることで、シミュレーションを容易にし、課題解決の方向性を持ちやすくさせる。

③ ICT活用の類型<C協働学習>

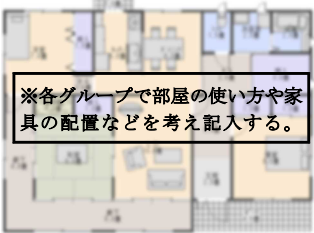
発表や話し合い

実物投影機を使用（タブレット等で映し出す、記録を撮って見せることも可能）して、発表シートの投影によるプレゼンテーションを行うことで、クラス全体で内容を共有しやすくし、発表時の補足的な説明も板書等を加えて行う。



○グループワーク用のシート例

住みよい住まいを考える～各ライフステージ毎に求められる住要求とは～



※各グループで部屋の使い方や家具の配置などを考え記入する。

- 担当する家族構成と該当するライフステージ
- どのようなことが予想される時期か
- この家族の住要求を満たすためのポイント
- この間取りの使い方の紹介
- この家のキャッチフレーズ

○事前・事後プリント例

個人記入シート

【事前①】 現在の住まいのよいところを問題点（課題）をそれぞれ挙げる。

【事前②】 自分の理想の住まい（住まい方）を明確に（課題）をそれぞれ挙げる。

発表から得た気づき→

【事後①】 新たに見えてきた現在の住まいの課題も挙げ、解決策について考える。

【事後②】 上記記入内容に対する変化やそれら挙げた理由について詳しく記入する。